

第 109 回岩手県総合計画審議会

(開催日時) 令和 7 年 9 月 17 日 (水) 15:00～17:00

(開催場所) サンセール盛岡 1 階大ホール

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議事

- (1) 講演「人口減少への対応－実効性のある施策とは－」

講師：山崎 史郎 氏 内閣官房参与（社会保障・人口問題・地方創生）

内閣官房全世代型社会保障構築本部総括事務局長

- (2) 意見交換

- 4 その他
- 5 閉会

出席委員

伊藤 裕一委員、牛崎 志緒委員、大建 ももこ委員、小川 智委員、小田 舞子委員、
上濱 龍也委員、見年代 瞳委員、佐々木 光司委員、佐々木 洋介委員、佐藤 智栄委員、
沢田 茂委員、菅原 紋子委員、滝川 佐波子委員、手塚 さや香委員、長屋 あゆみ委員、
野田 大介委員、三井 俊介委員、吉野 英岐委員

1 開会

○西野政策企画部副部長

ただいまから第 109 回岩手県総合計画審議会を開催いたします。

私は事務局を務めております、政策企画部副部長の西野でございます。暫時、司会を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本日、希望された委員の皆様には、リモートにて御出席いただいております。また、長屋委員におかれましては、別業務のご都合により、15 時半ごろ、リモートにて出席予定とお伺いしております。

次第等については、紙でお配りしておりますが、その他の資料につきましては、端末に格納しておりますので、御確認をお願いいたします。

それでは、審議会の開会開催にあたり、会議の成立についてご報告いたします。委員 20 名のうち、17 名の委員の皆様にご出席いただいておりますことから、岩手県附属機関条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。

それでは、開会にあたりまして、知事から御挨拶申し上げます。

2 あいさつ

○達増知事

お忙しい中、第 109 回岩手県総合計画審議会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

県ではいわて県民計画第2期アクションプランを推進しておりますが、人口の自然減・社会減対策を主軸にしながら、GX（グリーントランスフォーメーション）とDX（デジタルトランスフォーメーション）を両翼に、安全・安心な地域づくりを基盤として、10の政策の着実な推進と新しい時代を切り拓くプロジェクトの展開により、お互いに幸福を守り育て、世界に開かれた岩手の実現を目指しています。

地方創生につきましては、いわて県民計画の人口減少対策に係る戦略である、第2期岩手県ふるさと振興総合戦略に基づいて施策を展開しておりますが、国は、今年6月に、これまでの地方創生10年の成果と反省を踏まえ、今後10年間の方向性を提示する「地方創生2.0基本構想」を閣議決定いたしまして、本県におきましても、こうした動きを参考にしながら、さらに施策を進めてまいります。

本日の審議会では、内閣官房参与として、社会保障、人口問題、地方創生を担当している山崎史郎様を講師にお招きし、「人口減少への対応－実効性のある施策－」をテーマに、貴重な講演をいただきます。

講演後は講演内容を元に意見交換を行います。

委員の皆様におかれましては、それぞれの御活躍の分野や県民、地域の視点などから、忌憚のない御意見や御提言をいただきますようお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○西野政策企画部副部長

それでは、議事に入ります前に、本日の審議の概要など会議の進め方について、事務局より御説明いたします。

○本多政策企画課総括課長

資料1を御覧願います。

本日は内閣官房参与の山崎史郎様から、御講演を頂戴することとさせていただきます。

次のページに参考資料としてお示しした通り、国の地方創生2.0基本構想を踏まえまして、本県におきましても、地方創生に向けた取組をさらに進めていくこととさせていただきます。

こうした中、山崎様からは「人口減少への対応－実効性のある施策とは－」と題した御講演を頂戴いたします。御講演は16時までを予定しており、その後、委員の皆様から、御講演を踏まえた感想、御意見など御発言を頂戴したいと考えてございます。

次に、その他でございますが、事務局から総合計画審議会に新たに「若者・女性部会（仮称）」を設置することについて説明をさせていただきます。

最後に、その他を含めまして皆様から御意見がありましたら、御発言をお願いしたいと考えております。説明は以上でございます。

○西野政策企画部副部長

本日の審議会の内容は以上を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは早速、3の議事に入りたいと思います。

本日は内閣官房から山崎史郎様を講師としてお招きし、「人口減少への対応－実効性のある施策とは－」と題しまして御講演をいただくこととしており、市町村の皆様にもオンラインで御参加いただいております。

なお、山崎様におかれましては、御多忙中の御出席となりますことから、オンラインにより 16 時までの御対応となります。

また、大変恐縮でございますが、時間の都合上、講師の御紹介は配布資料に代えさせていただきたいと存じます。それでは山崎様、お願いいたします。

1 講演

○山崎史郎様（講演概要）

- ・2023 年 6 月に取りまとめられた「地方創生 2.0 基本構想」は、過去 10 年間の地方創生の取り組みを振り返りつつ、今後の方向性を示すものです。構想の背景には、地方から若者や女性が流出し、戻ってこないという現象が依然として改善されていないという深刻な課題があります。一定の成果は見られるものの、人口の流れを変えるという最も重要な課題が達成できていないという認識が共有されています。

- ・この問題の根底には、働き方や職場環境の構造的な課題があり、行政だけでは対応が難しい面があります。基本的には、働き方改革や職場環境づくりは企業が担うべき領域であり、行政の介入には限界があるからです。だからこそ、企業や地域のリーダー層の意識改革、いわば「マインドチェンジ」が不可欠となります。若者や女性は彼ら自身の合理的な判断のもとで行動しており、条件が変わらなければ今後も同じ流れが続くと考えることが適切です。したがって、この問題は若者や女性の在り方というよりは、彼らの行動のベースを作ってきたシニア層、特に（私自身も含めて）シニア男性の意識改革が求められる問題と言えます。

- ・人口減少のスピードは加速しており、2100 年には現在の半分の規模になると予測されています。1930 年と同じ人口規模に戻るよう見えても、社会構造は全く異なり、高齢者率は 4 割を超える見通しです。まず労働力人口の減少が現れますが、それ以上に、消費者やサービス利用者人口の減少が地域経済に深刻な影響を与えおそれがあります。日本経済は国内消費が占める割合が高く、地方の消費者やサービス利用者人口の減少はサービス産業や地域経済の縮小につながります。

- ・少子化の要因としては、非正規雇用の増加、教育・就職における過度な競争、都市部への若者集中、母親への育児負担の集中などが挙げられます。その中でも特に女性の働き方が大きな影響を及ぼしています。いまだに共働き世帯では出産・育児を機に女性が仕事を辞めたり、短時間の非正規勤務に切り替えたりすることで、収入が大きく減少するという構造的な課題があります。これは、女性は 30 歳前後から正規雇用の割合が急激に下がる現象で、正規雇用割合が逆 L 字型で下降することから「L 字カーブ問題」と呼ばれています。

- ・働き方の問題は意識の改革が必要です。ヨーロッパでは短時間勤務の人も正社員である「短時間正社員」制度が普及しており、子育て期も正社員として働き続けられる仕組みが整っています。日本でも中小企業を中心に導入が始まっており、今後の拡大が期待されます。

- ・雇用は、結婚行動にも大きな影響を与えています。男性は正規雇用の場合は結婚率が高い一方、非正規では大きく下がります。雇用の安定が家庭形成に直結していることが明らかです。また、都道府県別に見ると、女性の非正規率には大きな地域差があり、岩手県も高い水準にあります。この実態について「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」があるのではないかと指摘されており、地域の意識改革が求められています。

・一方、医療・介護分野でも、人口減少に対応した体制整備が急務です。医師や介護人材の不足、施設の老朽化、単身高齢者の増加など、複合的な課題が存在します。特に医師の偏在は深刻で、地域によっては医療提供体制が維持できない可能性があります。オンライン診療や「DTP with N」などの新しい仕組みの導入が進められており、地域医療の安定化に向けた取り組みが求められています。

・介護分野でも地域の特性に沿った制度設計が進められており、都市部・中山間地域・人口減少地域に応じた柔軟な対応が検討されています。単身高齢者の増加に伴い、介護保険制度の枠外で支援が必要なケースも増えており、シェアハウス型の住まいづくりや地域共生型の取り組みが注目されています。特養や老健施設の老朽化も進んでおり、既存施設の転換や再構築が急務です。

・今後の地域づくりにおいては、行政だけでなく、住民・事業者・金融機関などが連携し、持続可能な仕組みを構築することが重要です。施設の更新、人材の確保、空き家の活用、単身高齢者の住まいの整備など、多面的な視点が求められます。次の10年をどう設計するかが、地方の未来を左右する分岐点となっており、今こそ本質的な課題に正面から向き合う必要があります。

○西野政策企画部副部長

山崎様ありがとうございました。

時間の都合上、質疑応答を省略させていただきますが、最後に知事から御礼を申し上げます。

○達増知事

日本が直面する人口問題の本質、女性の働き方、アンコンシャス・バイアスに基づいて、賃金や正規・非正規、そして結婚、子育てと働き方の関係、それと裏腹ですけれども、男性がしっかりと育児や家事をするという問題、そういった実効性のある施策というものを改めて確認できたと思います。

そして、地域共生社会の実現、それが若者や女性に選ばれる地域の延長上に、必然的に目指すべきことといった大きなビジョンを得ることができました。本日はありがとうございました。

○西野政策企画部副部長

本日は御多忙のところ貴重な御講演ありがとうございました。改めまして盛大な拍手をお願いいたします。また、山崎様の御厚意によりまして、質疑等を事務局にお寄せいただければ、後日、山崎先生の方にお尋ねしたいと考えております。

それでは、講演を聴講いただいた皆様も、本日は誠にありがとうございました。

2 意見交換

○西野政策企画部副部長

それでは、続いて意見交換に移りたいと存じます。

ここからの進行は小川会長にお願いしたいと存じます。小川会長、よろしくお願いいたします。

○小川智会長

それでは、会議次第に従い議事を進めてまいります。

議事の（2）意見交換となります。先ほどの講演の内容を踏まえた感想や御意見など委員の皆様からご

発言いただきたいと思います。

本日は残り時間の都合上、1人2分以内での発言をお守りいただきたいと思います。

事務局において、1分30秒でベルを1回、2分で2回鳴らしますので、発言の目安としていただければと思います。それでは早速ですが、伊藤裕一委員、お願いします。

○伊藤裕一委員

今日は貴重な講演を拝聴いたしました。政府が決めましたこの基本構想については、概略的にはあらかじめ承知をしておったわけですが、今日は詳しいお話をお伺いすることができて、非常に貴重な講演だったなと思っています。

とりわけ、私ども連合岩手、労働組合でございますので、それぞれの職場におきまして、働き方の改善や様々な取組を実際行っているわけでありますけれども、そういう意味において、当面する社会減の対策、実際に働き手が不足をしているということは常々言われていることでありますので、私どもの立場でも、しっかり取り組んでいかなきゃならないなということを改めて課題認識を持ったところでございます。

一方で、若干長期的にはなるんでしょうけれども、出生数の低下、ここの部分の対策をしっかりやっていると、将来にわたってこの人口減少という部分には対抗できないということも、今日のお話を聞きながら、非常に強く感じたところでございます。

今日のお話では、具体的な要因、背景といったことも御提示をいただいたものと思っていますので、しっかりそういうことを念頭に置きながら、今後の取組を展開できればいいかなと感じたところでございます。

○小川智会長

牛崎志緒委員お願いします。

○牛崎志緒委員

貴重なお話をお伺いすることができたと思っております。日頃、Uターン I ターンの支援をしている中で、今日皆様お集まりですので、どんなニーズがあるかというところを改めて共有できたらなと思います。

以前からもちろんそうなんですけども、最近、岩手のために、何か自分のキャリアを生かしたいということで戻ってきたいというミドル・シニアのニーズが非常に多くなってきたなという現状があります。

もう1つは、ハイキャリアの方で非常に様々な経験をされた方が戻ってきたいんだけど、なかなか戻れる場所がないという御相談があります。

あとは、そういった岩手ってすごい良いかも、でも、どうやって仕事を見つけたらいいか、どういったところに就職したらいいかという、漠然とした御相談にいらっしゃる方が本当にいらっしゃるなというふうに思っています。

そんな中で、働きがいとか働きやすさ、大きく両輪の受け皿が必要になってくるわけですが、今後、岩手の企業の皆さんと一緒に考えていきたいと思うのが、多様な働き方は尊重されるべきだと私も思うんですが、それで割りを食う人はいるようではいけないので、そこの成長を止めない取組方を今後

も考えていきたいということと、あとは、非正規の方々が進んで非正規を選択するという傾向は私たちも日々感じているので、そこの正規と非正規の溝というか、非正規になると、デメリットしかないとか勘違いしている人の状況の改善に、本当に皆さんと一緒に考えていきたいなと思っています。

○小川智会長

リモートで、大建ももこ委員をお願いします。

○大建ももこ委員

私の方からは、自分も外から岩手に来た人の1人として、旅館業をやっている場所に嫁いできたという現状を以てして、周りの方からも、「家業があるところによく嫁いできたわね」というのを軽く言われたことも実際にあるんですけど、その中で、家族や家業があって嫁いできて、子どもが生まれて、子育てをしつつ、母親の介護もしながら、実際に今暮らしている状況なんですけれども、なかなかすることができない3世代での暮らしとかというの中で、決してマイナスの部分だけではないので、その想像だけでは決めてはいけないということも、どこかの段階でお伝えできる場があればいいかなと思いますが、実際に今すごいピンチなところにいるんだよというのをどこかの段階で共有しないといけないということも今日ちょっと強く感じました。

例えば、幼年施設と福祉介護施設というのは、かけ離れたものだったかもしれないんですけど、そこを何かシェアするような形でつなげるということもなかなかできない3世代の共有みたいなことに少し繋がるのかなと思います。おじいちゃんやおばあちゃんに普段全く触れない幼児さんたちが触れていたらどう変わっていくのか、お孫さんたちと離れて暮らしているおじいちゃんやおばあちゃん達が触れていくと、どのような変化を起こしていくのかなというのをどこかで地域の中で支え合うということを含めて見ていかなければいけない場面なのかなと思います。

旅館業からすると、そういう空間や交流を作っていくことは、これから携われる場面ではないかなと今日強く思いました。

○小川智会長

リモートで、小田舞子委員をお願いします。

○小田舞子委員

本日は山崎さんのとても貴重なお話を伺ってよかったと思います。本業でも1度、昨年末にインタビューしたことがありまして、本当に素晴らしい情報をいつもいただいているんですけども、その時に聞けなかった新しいお話もたくさん入っておりまして学びになりました。

特にショッキングだったのは、ジェットコースターから降りる瞬間のグラフというところで、今が一番人口が少ないのではなくて、これからすごい勢いで減っていくんだというところも、やはりデータで見るとすごく危機感が伝わって、どうにかしなくちゃいけないのだということがすごく伝わりました。

あとは、講演の中で紹介されていた、確か藤波さんのレポートにありました、出生率の県ごとの比較で、九州圏と東北圏の比較といったところで、その原因がやはりマインドの部分であるというところで、男性のマインドだけじゃなくて、おそらくそれを受けて女性のマインドのチェンジということも、これ

から取り組んでいかなければならないと思うんですが、マインド形成には本当に時間がかかって、地道な努力が必要になるところですので、これは山崎先生がおっしゃっていた通りに手を打っていかないと、本当に手遅れになると思います。

そのため、具体的に何か施策に落とし込んでいくということが大事なんだろうと思っています。

ただ、私の身の回りではUターン・Iターンで言うと、この間、有楽町で行われたイベントでも、Uターンしたい、Iターンしたいという方が岩手に行きたいという人がすごく増えているような感じがしていて、関係人口が増えているような気がするんですけども、それをどのように人口増につなげていくのかなといったところ、あとは、先ほど大建委員がおっしゃったように、今ピンチであるということは共有することも大事な一方で、昨日、たまたま20代の大学生や新卒生と話していたときに、「国のために」とか「地域のために」子どもを産むという考えにならないよねというものもあって、個人のプライベートな考えと政策のところをあまり直接的につなげようとする、上手くいかないのかもしれないというふうに思いますので、上手い具合にバランスと距離感を取りながら、でも着実に取り組んでいくところでやっていけたらいいかなと思います。

○小川智会長

上濱龍也委員をお願いします。

○上濱龍也委員

先日、敬老の日テレビを見てまして、岩手県内で100歳以上の高齢の方が1,284人もいらっしゃるというのを妻と聞いてまして、まだ人生半分ぐらいだねという会話をした途端に、会話が思わずブツツと止まってしまって、目の前が真っ暗になったのが、どれだけ重大な事実なんだというのを、理解させていただけるとような貴重なお話だったかと思います。

子育てをはじめとする支援に対しては、具体的に進んでいるかどうかは別にして、少子化の問題について共通的に認識されているところかと思っています。

一方、職場で考えると、先ほども出ましたけれども、残された周囲の人たちに対する支援という部分で本日の資料でも、業務を代替する周囲の社員への応援手当というような施策も出されているにも関わらず、こちらの方はあまり知られていないですし、これをどう使うかというのもこれからの課題だと感じたところでした。

さらに、私も外から来た人間として、岩手県の中で感じる県民性というか、雰囲気として非常に真面目で一生懸命だということ、これは素晴らしいところだと感じているんですけども、一方で、それゆえに公平、平等みたいなところが過度に勘違いされて理解されている側面もあるかなと感じています。

多様な働き方に対して、労働条件が違うという風に捉えられると、なかなか推進できないと思いますので、特に、若い人にたちにはそういった観点というのは重要なところかと思っていますので、どう広げていくかということに対しても、これから考えさせていただければと思います。

○小川智会長

リモートで、見年代瞳委員をお願いします。

○見年代瞳委員

ありがとうございます。非常にいい勉強になり、また、いろいろ自分の中で整理できたこともあり非常に学びがありました。

その中で印象に残ったのは、全世帯を対象とした社会経済構造全体の改革マインドを変えるということが非常に重要だなと感じております。そういう意味では、岩手県が今出しております、4本の柱も暮らし全体を底上げしていくという姿勢を示しているんだなと理解しているところですが、ただその一方で、例えば、本日のテーマでもある少子化対策という切り口で語られると、最近、どうしても若年層や子育て世代への支援というのは非常に前面に出やすく、結果として、特定の世代だけを重視しているというような誤解が、世代間の分断や不公平感に繋がっているのかなというふうに感じる時がありまして、それが、何となく全体でマインドを変えるというところを阻害している原因の1つなのかなということ講演を聞きながら感じておりました。

例えば、賃上げや雇用の安定などの施策も若者が主な受益者であったり、そこは国としても重点を置きたいという気持ちもあるのは分かりますが、本来は、こういった施策は世代関係なく、誰もが必要なときに利用できる仕組みであったり、受けられるサービスであるべきだと思います。

介護や福祉も同様だと思うんですけども、特定の世代にかかわらず、誰もが必要なときに受けられる仕組みだということをきちんと示していくことが、今後、県の取組を進めていく上でも、幅広い県民の皆さんにも評価が広がるんじゃないか、それが全体としてマインドを変えるということにも繋がっていくのかなと感じたところです。

○佐々木光司委員

私は自治体の首長として参加していますが、今、岩手町の人口が11,000人で、あと25年すると、ちょうど半分の5,500人程度になろうという局面に今あるわけでございます。

あと、25年後に岩手町で広い意味でどういう活動ができる、どういう活力が維持できるような町になっているかどうか、そういったところが本当に山崎さんの話を聞いて、今の仕掛けや種まきというのが非常に大きい意味があるということを改めて感じた次第です。

私見でもありますが、かつては大家族制度だったのが、核家族化になって、今はですねちょっと肌感覚で個の時代だと思うんですが、みんな家族の中がバラバラ、それが、ここ数十年の間で失われたものがですね、非常に大きいと思います。だからといって、大家族制度に戻した方がいいとか、そういう議論ではないんですが、このバラバラになっている現代社会というのをしっかり認識しなきゃいけない、そこにはやはり地域の力というのが大きな意味があるんじゃないかなと思っております。

山崎さんのお話の最後の方でもそういう話が出てまいりましたので、そういうところをしっかりと注目していかなければいけないと思います。

それから、こども基本法もできましたが、子ども主体の政策、女性主体の政策、そういったところに選ばれる岩手県のイメージ、戦術をしっかりと持って取り組んだら良いのではないかなということも感じた次第でございます。

○小川智会長

佐々木洋介委員をお願いします。

○佐々木洋介委員

山崎先生からのお話で様々な資料も見させていただきまして、今、自分が疑問に思っていることもこういうことだったんだってなと勉強させていただきました。資料に短時間正社員のページがありまして、ちょうど、私の会社の方でちょうど今年4月から試作的にやってみているところで、どうして周りの地域の方で、短時間正社員の制度をやっていないのかなと思ったときに、やはり日本の根強く残っているっていう背景みたいな、何か具体的に何かという理由ではなく、根強いところなんだということだと、時間かけてこうやっていって、だんだんその8時間労働という意識じゃなくて、その会社の業務のボリュームとして、今いる人数でどうというのが適してるのかという今までの引き継ぎながら仕事をやっていく、そして新しいのもやるというのは、もちろん今までのベースだったと思うんですけども、新たにこれはもう必要ないよねというものは切り捨てながら、新しいことをどんどん取り入れ、リニューアルしていくというやり方をしていきながら、人口減少を理解しつつ、今に合った会社のやり方が必要なのかなと思いました。

あとは、自然環境系の仕事が多い中、岩手のように自然に恵まれている環境でありながら、実はそういった業界の仕事はそんなに多くないと感じておりまして、そういったところで都会の方が岩手に来る、来てみたいという方々に対して、こういう仕事ありますよというのをこちらの方でも宣伝していきながら、どんどん岩手で働く人が増やしていけるように、働き方改革みたいものはこれからも勉強しながら続けていきたいなと思います。

○小川智会長

佐藤智栄委員をお願いします。

○佐藤智栄委員

私はまさに第三次ベビーブームを作れなかった年代ですが、本当に私たちの時代というのは就職氷河期、そしてその1つ下の年齢は超氷河期のだ真ん中です。

例えば、結婚って言ったときに、なぜ結婚しないのかと言ったときに相手の人が派遣だから、いわゆる非正規、そういう年代の始まりです。

今、私は会社を経営していて、会社経営する立場と子育てをする立場で、様々な子どもたちと触れ合うこともたくさんある中で、やはりお母さんは今、何にお金がかかることが不安かと聞くと、教育費が一番です。

都会の方では高校から無償化だったりということがある中で、岩手で例えば進学校に行く、そして、大学に行かせる、大学にいくらかかるのか、そして、その大学に行かせて戻ってこないというそれが当たり前だと思っていることを、例えば、高校の教育あるいは中学校の教育から子どもたちにも、岩手にはこういう仕事があるんだとか、岩手にいながらも、それこそAIだったりIoT使って、世界とこういう風に仕事ができるんだとか、それを親が大学に行かせて、岩手に帰ってきても非常に夢のある仕事ができるんだということのシミュレーションができるとか、そういったことというのは残念ながら本当に親の世代は全く分かりません。そのため、良質な教育をするために外に出す、でも、帰ってこさせる手段が分からないというのが、今の親の世代なのかなというのが1つあります。

後は、もう1つ、最近、本当にハラスメントという言葉をよく皆さん認識されていますけども、シニア

教育で、いわゆるアンコンシャス・バイアス、もう本当子どもがいるがために、地域の行事ができないということも事実でありますので、やはりこのシニア教育でより地域の子どもたちがどれぐらい大切なのかということを知ってもらうのも大事な機会だと思います。

○小川智会長

沢田茂委員お願いします。

○沢田茂委員

今日は大変有意義な講演を聞くことができ、特に5ページと24ページ、42ページのところがよくまとまっていて自分自身の考え方の整理になりました。大変ありがとうございます。

人口が減少するということは、消費者あるいは働き手が減っていくこととなりますので消費の減退や産業活動へのマイナス影響などを通じて地域経済の縮小につながるという指摘がよくなされます。しかしながら、私としては果たしてそういう捉え方だけでいいのかなと思うところが実はあり、例えば、岩手県の県内総生産は、年ごとの増減はありますが、長いトレンドで見るとむしろ増加しているのが実態であります。

県内総生産を生み出す要素としては、労働投入量と資本装備、生産性の向上が必要であります。労働投入量は働く人のことでありますので、人口減少が続き今後も不可避な状況においては減じていく動きになるわけですが、本県の県内総生産は実際には増加しています。これは本県にある企業が効果的に設備投資を行うとともに企業活動の効率化などを図ってきたからであると言えますし、それに向けて行政の取組みとして補助金や様々な施策を効果的に実施してきたことが結果として現れていると思います。そのほかにも例えば、経済産業省の「商業動態統計」によって本県のスーパーマーケットの販売額の実績を長期的に見ていくと実はおおむね増加傾向にあり、これは、それぞれのスーパーマーケットの様々な販売戦略や手法が功を奏して、消費者の需要を喚起してきたことが表れているものと考えます。今までどおりでいいと言うつもりはまったくありませんが、人口減少による地域経済へのマイナスインパクトの把握とともに、これまで取り組んできた施策の成果などを正しく認識して十分に今後の政策展開に生かしていくことも肝要ではないかと思います。

○小川智会長

菅原紋子委員お願いします。

○菅原紋子委員

今日の講演ですけれども、自分自身のことに置き換えて聞いていました。

私自身10代の頃は、やっぱり東京に憧れて、どうしても家を離れて、一人暮らしをしてみたくて、埼玉の大学に進学して、ただやっぱり埼玉で就職して働くということはせずに戻ってきて、今は農業をしています。

実際、農業に10年以上携わってきてみて、農業の働き方というところはすごくどうにかしなければいけないということを実感しています。

今日の話を聞いてみて、人口減・社会減に対して良い策は今思いつかないんですけども、農業という職

業がもっと様々な方にも選ばれるように、私自身も経営していきたいと思いますし、働き方を考えていきたいなと思いました。

○小川智会長

滝川佐波子委員をお願いします。

○滝川佐波子委員

講演をお聞きして、改めて医療介護の抱える危機的な状況について認識をいたしました。

医療福祉の従事者というものは、総雇用数に占める割合は、2021 年度においてすでに 13.8%となっています。岩手県においても地域に貢献して働きたい若者にとって魅力のある職場となるポテンシャルが高いとは感じるのですが、残念ながら現状はそうでないのかもしれないかもしれません。

地方創生 2.0 基本構想におきましては、各地域の実情に応じたエッセンシャルワーカーや地域の担い手となる人材の養成を関係機関と連携しながら進めるとしてありますが、せっかく育成した医療従事者が県外に流出しているのではないかと思います。

やはり、命を預かる職務の重さに見合った処遇改善がなければ、この医療人材の流出という傾向には歯止めがかからないと思います。

診療報酬の本体改定率は令和 6 年度でプラス 0.88%でありまして、最低賃金や人事院勧告の高い伸び率、春闘の平均賃金賃上げ率に対応できるような状況ではありません。

採用の難しさは、事務職員においても顕著でありまして、他産業との人材獲得競争に敗れている状況でございます。先の国政選挙において、若い世代の社会保険料の負担率が重いことが 1 つの争点となりまして、公定価格で運営している医療機関にとっては、問題の切実さを改めて認識いたしました。

新たな地域医療構想を練り上げていく上でも、地域の医療機関の存在、医療介護人材の確保は不可欠なものです。医療 D X にかかる負担、それから、人材確保に対する負担に関して、行政と連携して、ぜひ御支援をお願いしたいと思います。

○小川智会長

リモートで、手塚さや香委員をお願いします。

○手塚さや香委員

講師の講演や、皆さんそれぞれ立場や世代、性別も踏まえて御意見を言っていて、学ぶところが多いなと感じました。

私自身もちょっと取り留めもないところでお話させていただくんですけども、私は埼玉県、東京圏の出身で、岩手に 10 年おりますが、まさに氷河期ど真ん中でして、40 歳ぎりぐらいのときに結婚をして、子どもはいないという氷河期世代なので、今日話を聞いていてやっぱりちょっと居心地が悪いじゃないですけども、好き好んで氷河期世代に生まれたわけではないのに、何かやっぱこういう議論になって、一緒に考えましようと言われても、もちろん一緒に考えるつもりはあるんですけども、やはり私たちの世代は結構損をしている感じはあるなと改めて思ったところでした。

それはありつつなんですけども、少子化を食い止めると言っても、そもそも何のために必要なのかと

思ってます、地域を持続させるためなのか、労働力、消費のためなのか、または岩手で暮らしている私たちや日本で生きている私たちの幸福のためなのか、何のための議論かによって、そのスタンスや取組方によって変わってくるのではないかとこのように思っています。

私自身は東京で働いているときはそもそも子どもが欲しいってことを思ったことはあまりなくて、なので今、子どもがいないことも全然不幸だと思ってません。

ただ一方で、この釜石というゆったりとした土地に来てみて、子育てをするという選択もあったのかなとも思うようになりました。

東京や都市部よりは岩手の方が子育てや家族で暮らすということがしたいと思われる素地はあると思っていて、そこにしか地域の可能性は無いと思っていますし、そこを出ていきたいと思っています。昭和と一括りにいう中でも、行動経済成長よりも前の地方の暮らしが岩手の魅力だと思いますし、そこに可能性を感じられるような国の施策を打ち出していきたいなと思います。

○小川智会長

引き続きリモートで、長屋あゆみ委員をお願いします。

○長屋あゆみ委員

本日は貴重な講演ありがとうございました。私の専門分野からの思いをお伝えしようと思っていますが、仕事と子育ての両立というのはどうしてもついて回っていると思っています。

私は保育業界にいますので、子育ての不安の解消に、保育士不足に対する不安を持っている方も中にはいらっしゃるということを聞きました。

また、潜在保育士についてはずっと言われてきていますが、何か潜在保育士を引き出す施策をしないと産んだお子さんを預ける人が減るのではないかと考えています。

専門的な話になりますが、例えば、園の仕事が間に合わなくて、持ち帰りをして夜中に仕事をやっていたりする人はいまだにゼロではなく、そういったことも、自分が子育てをしながら復帰するときに、仕事と家庭とのバランスが取れなくて、結果的に保育の仕事をやらないという方が私の周りにいます。

先ほどあったヨーロッパの話で、時間が限られた正規雇用が保育士にもあることや復帰のハードルを下げるための研修、復帰支援金といった施策を打ち出していないといけないと考えています。

保育士のICTシステムが導入されたことにより、子どもと向き合う時間が増える、その導入支援金みたいな形で、岩手県では子ども中心の保育をするためにICTツールを活用しているということも打ち出すことによって、じゃあ実家に戻って仕事をしようかなという1つの売りになるのかなと思っています。

また、先ほど、地域によるという話があったかと思いますが、例えば、子育てについて先ほど手塚委員がおっしゃった通り、高度経済成長の前の子育てのような地域づくりの仕組みを作ることも必要と思っています。

元気な高齢者づくりも1つの手かなと考えています。スポーツにも従事しておりますので、生涯スポーツのあり方をもう少し幼児期から取り組むことで、岩手にいると年をとっても元気で、しかも、人の役に立ち、子どもたちのお世話をしていることが生きがいで、最後まで楽しく暮らせたなと思えるような全体的な取組も必要かなと思います。

○小川智会長

野田大介委員をお願いします。

○野田大介委員

本日は、山崎内閣官房参与の貴重なお話を聞くことができ良かったと思います。

私は、介護業界におりますので、本日、山崎参与の話が聞けるということは本当にうれしく思っていますが、県の方にお願いが1点と、あとは私見ですが意見を述べさせていただきます。

1点は、先ほど、D to P with N、離島・へき地のオンライン診療のお話がありました。

いわゆる、患者さんのところに看護師がいてオンライン診察を支援するというものですが、私のまだ肌感覚ですが、是非、看護師の偏在の数字も出していただきたいと思います。

比較的、看護師も都会の方に引っ張られているのかなと思っておりまして、やはり、病院の方でも看護師配置基準というのがありますので、より都会の方で給料が高いうところで働きたいという方が、岩手からどんどん東京の方に流出しているという肌感覚ですので、是非、看護師偏在の数字を出していただくと、委員の皆様へも議論の材料になるかなと思っております。

介護報酬が安いという話は、結局、国の話になってしまいますが、今までいわゆる主婦の皆さんが兼業で働けていて、給与低くても働くことができたんですが、今はその主婦の方も採用できない、女性の方が採用できないということになりまして、そうすると、外国人の採用ということで、外国人の方がちらほら見えている状況です。

そのような部分で、外国人に頼らないといけないこの現状ということを踏まえると、やはり介護の処遇改善が一番私は大事なかなと思っています。そして介護という仕事は洋野町という田舎でも1つの商売として成り立ちますので、ぜひ支援していただければと思っています。

○小川智会長

リモートで、三井俊介委員をお願いします。

○三井俊介委員

私からも2点ほどお話ししたいなと思うことがあります。

1つは本日の講演の中でもありましたが、自然減、社会減に対して対策をしていくことが重要だというお話を山崎さんがされたと思いますが、大事ななのは、地方はそうなんですけども、都会でも、社会減の対策をされちゃうと、デスゲームになってしまうなと思っていまして、そもそも都会の方が吸引力がありますので、何もしなければ若い人が移動することは、日本だけでなく、世界各国を見てもそうなっていますので、大事なのは社会減の対策をするのは、我々地方で、東京を含めた大都市は、社会減を積極的に促すような政策を国としてやっていかないと、全体のバランスが調整されないと思います。

それは、岩手県だけでできる話じゃないと思いますが、各自治体と連携を取って国に訴えかけていく必要があると思います。

私の目から見ても、東京も含めて、彼らは人口増を目的した政策が多いなという風に見えるので、その部分では国として、考え方が矛盾しているなといつも思っていることですので、今日お伝えさせていただきました。

2つ目は働き方、雇用の仕方が一丁目一番地というお話だったかなと思います。

これを推進するために、企業の皆さんは頑張ってくださいねというのはかなり無理がある話かなと思っていて、僕自身も会社を経営してますし、周りを見ても思いますが、とにかく余裕がないように見えますので、アンコンシャス・バイアスだけが問題じゃないよなというのが正直思っています。

例えば、正規雇用を時短にして、社会保障がちょっと増えるだけだから大丈夫みたいな話をされてましたが、実際はそんなことはなくて、正社員とアルバイト雇用では企業側が負担する金額が違いますので、これを一社だけの努力ではなかなか変えられるものではないと思いますので、そういうところを整えていく必要があると思います。

アルバイトで雇用するよりも、正社員として時短で雇用した方が、企業にとっても経済的にメリットがあるですとか、企業の成長にメリットがあるといった環境を作っていないと、企業側はやっぱり合理性の中で、「アルバイトの方が安い、パートの方が安い、だからその方がいいよね」という意思決定をしがちですので、その点は是非、行政とも一緒に考えて、良い環境を作っていければと嬉しいと思っています。

○小川智会長

吉野英岐委員をお願いします。

○吉野英岐委員

私も実は東京出身で28年岩手県に住んでいますけれども、今の東京の生活環境は、猛暑と高価格の住宅土地の価格の中で、どう考えても生活環境が悪いと思います。それでもあれだけの人が住み、働いているという現実があります。岩手はその分、何かが足りないからという話が多いですが、「岩手だからこそ」という良い面をもう少し打ち出してもいいのかなと思って聞いていました。

特に、子どもにとって良い面が岩手にはもっとあるということをアピールしてもいいかなと思っています。どうしても、少子化で学校統合の問題がすごく出ており、縮小的なお話が多いことを子ども自身が敏感に感じていて、何か厳しいのかなという風に子ども自体が思っているように思います。

小学校の頃は、まだ地域に貢献する気持ちを持っている子どもたちが、中高生になっていくとだんだん減っていくという統計があり、その後に県立大学に来るんですけど、もうちょっと手遅れな状況なので、子どもの頃にどうやって岩手はすごく良いところで、将来ここで住むことの方が、東京に行くよりよっぽど楽しい人生が送れますというようなことを、いろんなところでもっとPRしていくべきだなと思っています。

スーパーキッズでかなり効果を上げていると思いますが、地域の担い手としての子どもたちの存在は大きいと思いますので、スポーツだけではなく、文化も含めた形で、ぜひ子どもたちにたくさん投資できるような環境を整えていければなと思って聞いていました。

○小川智会長

今日のテーマである人口減少への対応は、何よりも実践が大切だと思います。

人口の半数を占める女性の活躍を促進するため岩手大学では、女性教職員比率や女性上位職比率の具

体的な目標値を立て、実現に向けた方策を実施しています。具体的な取組として例えば、子育ての支援や働き方改革など、雇用条件の改革を積極的に進めています。

大切なのは目標を設定し、着実に取組を実行するということです。

最近ひとつ気になっていることは、全国がほぼ同じ施策を打っている状況で、今後どうなるんだろうかということです。やはり我々岩手としては、他の自治体にはないような、特徴ある施策を打ち出すことが大切なのではないかと思います。

○小川智会長

以上で委員からの発言を終了させていただきますが、事務局の方から回答はございますでしょうか。

○本多政策企画課総括課長

山崎さんのご講演を踏まえまして、まさに短期的な視点で今やっていること、あるいは来年度に向けてといった話から、中長期的な視点の話まで、皆様から様々な御意見を頂戴したと考えております。

野田さんの方からお願いということで、看護師の偏在の話を頂戴しました。

看護師の配置は野田委員がおっしゃった通り、配置基準を国がどう設定するかで、ダイナミックに人が動いたりするところもあったりしまして、県でも医師だけではなく、看護の養成配置についても国の方に要望をしているところでございます。

さらに、医師、看護師だけではなく、他のメディカルの人たちについても、様々、診療報酬の改定が物価高騰に追い付いていない状況の中で、地方での確保が難しいということで、そういったものにつきましても、要望しているところでありまして、頂いた御意見についても参考にさせていただきたいと思えます。

また、全体的なところといたしましては、現在、第2期アクションプランについて今3年目で来年4年度ということとなっております。また、ふるさと振興総合戦略も来年度が計画期間のゴールということで、今の取組を進めるためにも参考にさせていただきたいと思えます。また、その次の計画に向けて、まさにこの岩手県の特徴をどう打ち出していくかというところは大事だと思いますので、本日頂いた意見を参考にさせていただきながら、そういった取組を進めてまいりたいと考えております。

○小川智会長

ありがとうございました。他いかがですか。

○加藤保健福祉部副部長兼保健福祉企画室長

先ほど野田委員の方から、看護師の偏在についてお話がございました。

御案内の通り、医師につきましては、2030年頃まで不足するというような数字を、国の方でも試算をしているところでございますが、看護師につきましては、はっきりしたものは正確には出ていないというのが正直なところです。

ただ、県内の看護職員の数はこれまで右肩上がりが増えてきている状況がございましたが、令和6年に初めて減少に転じました。

今後につきましては、そういったところの数字の把握が必要となりますので、そういった現状につい

て、しっかり把握をしていきたいと思っております。

県内の看護学校において、就職先として県内を選ばれる学生がいる一方で、やはり給与格差があるということで、首都圏に流れるというようなところは確かにございますので、そういったところを奨学金の対応や県内の医療機関等の職場の魅力をしっかり伝えながら、県内定着というところを進めてまいりたいと考えております。

○小川智会長

ありがとうございました。それではこれまでの委員の皆さんの発言を参考にしながら、今後の県の取組を進めていただきますようお願いいたします。それでは進行を事務局にお返しします。

4 その他

○西野政策企画部副部長

小川会長、議事進行ありがとうございました。それでは、4 その他についてでございます。

事務局から地方創生のさらなる展開に向けまして、総合計画審議会に「若者・女性部会（仮称）」を設置することについて、説明をさせていただきたいと存じます。

○菊池特命参事兼政策課長

机上配布資料によりまして「若者・女性部会（仮称）」でございますが、こちらの設置案について御説明したいと思います。よろしくお願いいたします。

この部会の設置案をお示しする背景といたしましては、まず、県の総合計画でありますいわて県民計画の第2期アクションプラン、また、人口減少対策を推進する、第2期岩手県ふるさと振興総合戦略、が令和8年度に計画期間の終期を迎えますことから、今後、次期プラン等の検討を進めていく必要がございます。

また、その検討に当たりましては、若者や女性から、より一層選ばれる岩手を実現するプランとするために、若者や女性の参画を確保し、当事者の視点を取り入れることが重要と考えているところでございます。

国におきましても、本年6月に、地方創生2.0基本構想を閣議決定しまして、都道府県や市町村が策定する地方版総合戦略、本県ではふるさと振興総合戦略でございますが、その検証や見直しにあたっては、地域の若者や女性の議論というのが重要であるということが示されたといったところでございます。

2番の対応案でございますが、そうした背景を踏まえまして、案といたしまして、この総合計画審議会に「若者・女性部会」を設置しようとするものでございます。具体につきましては、次回、第110回の総計審においてお伺いしたいと考えているところでございます。

なお、口頭での補足で恐縮でございますが、総計審への部会の設置につきましては、条例において設置できることとされているところでございまして、現在、設置されている部会といたしましては、吉野委員に部会長をお願いしてございます、県民の幸福感に関する分析部会がございます。

資料に戻りまして、この「若者・女性部会」では本県の現状や取組の基本的な方向性等について、御議論をいただきたいと考えてございます。こちらで得られた御意見等につきましては、総計審に御報告して、審議等に活かしていきたいと考えているところでございます。

繰り返しになりますが、詳細につきましては、次回の総計審において御説明・御意見を伺いたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

○西野政策企画部副部長

最後に全体を通して何かございましたら御発言の程お願いいたします。

山崎委員の御講演においては、時間の都合上、質疑応答の時間を設けることができませんでした。

山崎様の御厚意によりまして、今回の講演について、質疑等ございましたら後日御回答いただけるということになっておりますので、お聞きになりたい質疑事項等ございましたら、事務局にお寄せいただきますようお願いいたします。

5 閉会

○西野政策企画部副部長

それでは閉会に当たりまして、最後に知事から御礼を申し上げたいと思います。

○達増知事

今日は、山崎史郎さんの講演を聞いて、それに基づいて意見交換ということで、いつもとは違った雰囲気
の審議会ではありましたが、県の総合計画審議会や人口問題で地方創生に関する戦略ということについて、深く考え、議論をするいい機会になったと思います。

山崎史郎さんは、官僚として人口問題に深く関わり、去年、地方創生 10 年を見直すということで、政府でも見直しが行われ、そして、経済界でも民間有志の人たちが人口問題に関する会議を作り、いろいろやっていましたが、その双方に山崎史郎さんは関わっていて、地方創生 10 年を振り返るということに関しては、日本を代表するような見解を発表していただけたと思います。

東北全体として、合計特殊出生率と婚姻率が低く、自然減の問題が深刻化し、そして転出超過、社会減の問題も深刻であるということ、改めて聞くことがありまして、その背景に女性の働き方ということについて、わかりやすく遅れているところがあるのではないかとということが大きな主題だったと思います。

これに関連しては、東北各県の経済界や大学の代表、そして知事が集まる、わきたつ東北という会議体がありますが、去年、そこが「東北の人口問題」を取り上げて、今日、山崎史郎さんが発表した同じ趣旨の発表を、「間違いだらけの少子化対策」という日本中で読まれている書籍を出した天野馨南子さんというニッセイ総合研究所の研究員の方を招いて、アマノショックというような感じで、特に経済界の皆さんは経済界のリーダー達の考え方、やり方次第で、東北の人口問題は解決できるというようなことを言われて、大いに奮起されたというところがあり、また、岩手県でも、岩手経済同友会がやはり天野さんを招いて、やはり、アマノショックを岩手県経済界としても受けていたということがあります。

経営に携わる皆さんの意識改革が大事であるということ、プラス、働く側も、やはり自ら意識改革していくことが大事ですし、男性が家での育児や家事をしっかりとやるということもありますので、広く県民的な意識改革が求められており、県はいろんな形でそれを支援すること、また、それをやろうとする中小企業において、物価高問題、賃上げ問題を上手にやっていかなければならないという課題や何かとお金がいる状況に対して、県として、そういった面での補助支援もしていこうというところでもあります。

また、G X・D Xを並行して取り組んでいるわけですが、このG X、温暖化対策、気候変動対策

に取り組むことで将来に希望が持てるようにし、また、その自然を大切にする、生命を大切にするという発想の転換も、この働き方の改革に繋がると思いますし、DX、このデジタルをどんどん取り入れるということもやればやるほど、一人一人の働き方をカスタマイズしていくことができるようになっていくわけでありまして、結婚、出産といったその人の人生に合わせた働き方を合理的に両立できるようにやっていくことで、そういう人間らしく生活し、働くことができるためにもDXが非常に大事だということもありますので、そういった総合的な政策、自然減対策、社会減対策の総合的な政策プラス、GX・DXというところもまた総合的に取り組んでいく必要があると思います。

また、県では、輸出の増加とインバウンド、観光振興に力を入れていて、いわば国際化に力を入れているところですが、そのように国際的に通用する経済社会のあり方を追求していくことで、男尊女卑的なことはもうやめましょと、そういう古いやり方はやめましょということにも繋がっていきますので、国際化の効果というものも活用していきたいなと思います。

喫緊の課題であり、中長期的な岩手のあり方を決めることでもありますので、「若者・女性部会(仮称)」の設置というのも、そういう流れの中で行われるものですが、普段の総合計画審議会のあり方だけでは、足りないのではないかとということで今日みたいなやり方もやりますし、新たな部会を設置しようということもやりますので、委員の皆様も、ちょっと前では全然思いもよらなかったオンラインといったやり方やこの審議会のやり方、委員の皆様からすれば参加の仕方についても、いろいろ新しいやり方なども工夫しながら、一緒にやっていければと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

○西野政策企画部副部長

それではこれもちまして本日の審議会、閉会といたします。

本日は長時間にわたりまして熱心なご審議ありがとうございました。